

2013年11月12日

独立行政法人国際協力機構(JICA)平成25年度第1回民間提案型普及・実証事業契約締結のお知らせ

～フィリピン・メロセブ水道区での飲料水供給～

水処理メーカーの日本原料株式会社(本社:神奈川県川崎市 代表取締役社長:齋藤安弘)は、11月5日、平成25年度第1回民間提案型普及・実証事業に係る契約を独立行政法人国際協力機構(JICA)と締結しましたことをご報告いたします。

平成25年11月より平成28年1月までの2年2ヶ月間にわたり、フィリピンのメロセブ水道区で、「移動式砂ろ過浄水装置及びろ過池更生システムの普及・実証事業」として、当社の製品・技術を活用した普及・実証事業を実施し、供給地域の住民を対象に、より安全な飲料水を供給してまいります。

フィリピン第二の都市であるメロセブは、急速な人口増加や都市化の一方で、水道普及率は約56%と不十分であること、水源の約95%を地下水に頼るなど、水道を含む脆弱なインフラが経済発展を阻害する要因となっています。メロセブの水道事業体であるメロセブ水道区の浄水場では、原水の汚れを除去するために砂を主とした粒状のろ過材(フィルター)を利用していますが、ろ過を続けることでろ過材の表面に汚泥が付着してろ過機能が損なわれ、給水量も低下しています。また、地下水に含まれる鉄・マンガン分により、飲用水としての水質に問題を抱えているため、住民は高価な水を購入せざるを得ません。一方、水を購入できない住民は汚染されている浅井戸を掘削して利用するため、保健衛生上の問題も発生しています。

今回の普及・実証事業では、「ろ過池更生工事・システム」と、移動式砂ろ過浄水装置「モバイルシフォンタンク」の2つを用います。

1つ目の「ろ過池更生工事」は、浄水場で使用され経年劣化したろ過材を再生させるリサイクル工事で、当社が昭和30年代から提唱し、日本国内で実績を積み重ねてきたメンテナンス方法です。ろ過池の中のろ過材を「ろ過池更生システム(高速度篩分け洗浄機)」を使用して洗浄し、再びろ過池に戻すことで、ろ過池の処理能力を回復させます。

2つ目の移動式砂ろ過浄水装置「モバイルシフォンタンク」は、ろ過材の再利用を可能とした「シフォン洗浄技術」を組み込んだ移動式の砂ろ過装置で、車載が可能です。ろ過材同士の揉み洗いにより表面に凝着した汚れまでが除去されることで、水質が維持されるほか、ろ過材の交換が不要です。鉄・マンガン分を除去する特殊ろ過材を使用し、水源として大部分をしめる地下水はもちろん、表流水についても、水源を移動しながら飲用水の確保を検討します。

メロセブ水道区では、現在、JICA の技術支援(メロセブ水道区水道事業運営・管理技術支援プロジェクト)等を通じて、水質向上対策が進められています。本事業には、横浜市水道局が設立した横浜ウォーター株式会社も参加しており、同国の水道セクターの実施体制や課題を把握していることから、円滑な事業実施が期待できます。

- 案件名称 : 独立行政法人国際協力機構(JICA) 平成25年度第1回民間提案型普及・実証事業
※平成25年5月10日公示
- 事業分野 : 水の浄化・水処理
- 事業名称 : 「移動式ろ過浄水装置及びろ過池更生システムの普及・実証事業」
- 事業実施国 : フィリピン



ろ過池更生システム



モバイルシフォンタンク(車載時)イメージ

日本原料は昭和14年の創業以来たゆまぬ努力を続け、ろ過材トップメーカーとして当社のろ過材を日本の浄水場の8割以上でご利用いただいております。また、本リリースでご紹介した民間提案型普及・実証事業で活用する製品・技術を始め、ろ過材を洗浄して再利用を可能とした【シフォン洗浄技術】(国際特許取得)を採用した水処理装置のシリーズ製品開発も行っています。今後も安心安全な「水」を世界中に届け、国や地域による水の格差をなくすために尽力いたします。「ろ過」「ろ過材」「水処理」の知見をもとに、日本原料ができること、日本原料だからできることに一層努めてまいります。

日本原料株式会社

本社:川崎市川崎区東田町1-2 NKF 川崎ビル

TEL 044-222-5555

FAX 044-222-5556

<http://www.genryo.co.jp>

info@genryo.co.jp

担当者:企画開発推進本部 田中